

News Letter

2009年9月
No.2

日頃は慶應義塾維持会の活動にご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

慶應義塾維持会は、慶應義塾の維持運営のために毎年寄付を行う方々の会員組織として1901年に設立され、今年で108年となりました。現在、維持会員数は約43,800名、皆様のご厚志による維持会基金は約26億円に上っています。2007年度にはこの基金の運用益を充てることで「慶應義塾維持会奨学金」を新設し義塾の奨学制度を一層充実させました。また、義塾の教育・研究・社会貢献の活動に幅広く寄与しています。今後とも維持会の活動に忌憚のないご意見を賜りますよう、また慶應義塾の発展にお力添えくださいますようお願い申し上げます。

維持会はさまざまな事業を支援しています

慶應義塾創立150年記念講演会「学問のすゝめ21」への財政支援

創立150年記念講演会「学問のすゝめ21」は、現代社会が抱える様々な課題を視野に入れたテーマを毎回設定し、2007年8月より2008年9月まで全国14か所にて開催、維持会員の皆様をはじめ、塾員、地域の方々等、約14,000人に参加いただきました。慶應義塾の「知」を発信するとともに、「学問」の楽しさと深さを再発見していただく機会となりました。記念講演会の模様は動画配信、メールマガジン、ブックレット等でお伝えしています。

▶「学問のすゝめ21」WEBサイト <http://gakumon21.keio150.jp/>
<2007・8年度維持会事業費 7,500万円>



● 東京会場の様子(2008年9月23日)

三田キャンパス北館の建設費を補助

三田キャンパス北館は維持会より1億5,000万円の建設費補助を受けて1994年に竣工しました。1階には学会・講演会等にご利用いただけるホールがあり、レストラン「ファカルティークラブ」は三田会・クラス会等のパーティにご利用いただき、義塾社中の交流の場となっています。(ファカルティークラブについてのお問い合わせはTEL.03-5442-3296へ)2階には維持会の事務を担当している基金室、塾員の窓口となる塾員センター、また創立150年記念事業室では慶應グッズも販売しています。ぜひお立ち寄りください。

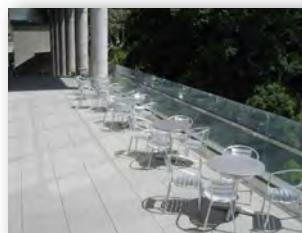
<1992年度維持会事業費 1億5,000万円>



塾生に憩いの場を提供

今年度の維持会事業として、三田キャンパス南館テラスにテーブルとイスを設置しました。また福澤記念園・第一校舎前等にもテーブル・イスを増設し、塾生、近隣の方々の憩いの場として整備を進めています。さらに福澤記念園・幻の門周りの照明を増設し、構内の安全性を高めます。

<2009年度維持会事業費 500万円>



● 南館2階テラス(5セット新設)



● 福澤記念園(2セット増設)

裏面で福澤記念園の歴史をご紹介しています

その他の今年度の維持会事業として、アントレプレナー支援資金(慶應義塾の学術的研究成果の社会的活用の促進を目的として、義塾の知的財産権の実用化に際して設立されるベンチャー企業1社に対して最大100万円の出資を行います)と、慶應義塾大学博士課程学生研究支援プログラムへの財政支援を計画しています。

慶應義塾維持会奨学金

近年、経済的理由により学業の継続が困難になる学生が全国で増えており、慶應義塾でも約9,700名の塾生が奨学金を受けています。こうした現状を踏まえて、義塾の奨学制度の一層の充実と将来良識ある社会人として活躍できる人材を育成することを目的に、2007年度に維持会事業の中核として「慶應義塾維持会奨学金」を新設しました。この奨学金は、経済的理由により修学が困難な塾生に勉学に専念できる環境を整え、また全国の優秀な学生に義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用しています。運用3年目をむかえた今年度（2009年度）は維持会奨学金がより有効に活用されるよう対象・金額等の見直しを行いました。

- 対象学年を3年生以上（6年生の学部については5年生以上）から1年生以上に拡大しました。
- 地方出身者（東京・神奈川・千葉・埼玉以外）を優先とするが首都圏の塾生も応募可としました。
- 学部の授業料・学生数とのバランスにより支給額・人数を調整しました。（文・経・法・商・総合政策・環境情報・看護医療学部から44名・各50万円）（医・理工・薬学部から10名・各80万円）

今年度は250名を超える応募があり、厳正な審査を経て総額3,000万円・54名の塾生に支給することを決定しました。これまでに39都道府県・145名が採用され勉学・課外活動に充実した学生生活を送っています。維持会奨学生には、維持会へのメッセージを必須としており、今年7月に開催された維持会常任委員会懇親会では、維持会員の代表である維持会常任委員の方々へ感謝の気持ちと今後の進路・抱負を語ってもらいました。

今年度（2009年度）の維持会奨学生から感謝の言葉が寄せられています

今年度採用者54名のうち、7名のメッセージ（一部抜粋）をご紹介します。

維持会員おひとりおひとりの温かいご厚志に対する気持ちを受け取っていただければ幸いです。

この度は慶應義塾維持会の奨学生に選んでいただき、ありがとうございました。慶應義塾大学医学部で学ぶようになって5年目となり、今年から、これまでの講義に加えて病棟内での臨床実習がはじまりました。実際に診療に加わって目にする症例は、教科書で学ぶことのできる典型例とは大きく異なり、医学の奥深さを日増しに実感しているところです。また、学部内での講義や実習に加えて、研究室で免疫学の研究も行っています。これまでに一度の国内学会発表を経験し、現在は、7月の国際学会発表を控えているところです。このように、臨床医学、基礎医学両方で学生が豊かな経験を積むことができる慶應義塾大学医学部の素晴らしいシステムを、いっぱいに享受させていただいております。

一方で、他の学部の5、6倍にもなる医学部の学費に関して、これまで両親に対して少なからず後ろめたい気持ちを感じてきました。今回奨学金をいただいたことで、少しでもその負担を軽減することができればと考えています。また、研究を進め、病棟で臨床例を見ている中で、基礎研究で観察されることと、これまでの長い医学の歴史の中で患者さんから観察してきた事



柄との間の関係を説明するために、自分なりの見解を持ちたいと考えるようになりました。そのためにいくつかの成書を手にしたいと考えておきましたので、今回いただいた奨学金の一部は、それら医学書の購入にも充てたいと考えております。

多くの塾生の中から採用していただいたことを肝に銘じて、大切に使わせていただこうと思います。ありがとうございました。

●医学部5年（静岡県）

この度は慶應義塾維持会奨学金に採用していただき、ありがとうございました。いただいた奨学金は大学の学費、所属ゼミでの卒業論文作成の資料収集や印刷代そしてゼミの後輩への指導用の資料代に充当したいと考えています。昨年度も採用していただき、その際は両親の経済的負担が軽減できたため、両親への恩返しができたと考えています。今回は、2年目の採用という事なので、より一層、明確な目標を持ち、気を引き締めて、勉学に励んでいきたいと考えています。私はこの3年間、常に自ら探求したいテーマ（資本市場論）に向けて、勉学に励んできたつもりでいます。一本の明確な目標があれば、日常生活においてメリハリがついたことで相乗効果が出てきました。

厳しい経済環境の下で就職活動をしましたが、結果的に志望していた経理・財務の仕事に就くことができました。この結果を招いたのは、自分の確固たる意志を貫くという慶應義塾において3年間で培った精神が生かせたのだと考えています。また、就職活動中には優秀な社中の皆さんと出会うことにより、改めて慶應義塾の日本社会での影響力や偉大さを知ることができました。皆さんの母校である慶應義塾を愛する気持ちや誇りが実業界でも良い刺激を与えているのだと思います。こういった自然に生まれてくる自覚が重要な気がします。私が所属している商学部では、商学という枠にとらわれず、興味を持って学際的なカリキュラムが用意されていたため、探究心に刺激を受け、また、数多くの優秀な仲間にも出会うことができ、大変恵まれている環境に大変感謝しております。



学部を卒業するまで残り数ヶ月になりましたが、卒業後、後悔することのないよう、より一層勉学や課外活動に邁進していきたいと思っております。また、卒業後も社中の一員として慶應義塾のさらなる発展そして優秀な後輩の育成に寄与していきたいと考えています、この度は本当にありがとうございました。

●商学部4年（京都府）

私は幼いころから法曹を目指しており、慶應義塾大学への入学試験に際しても、主にその法学部の質の高さという理由から受けさせていただきました。入学して約3ヶ月が経ちましたが、実のある授業と素晴らしい友人に囲まれて、充実した日々を送っています。とはいものの、法曹希望者には大学院入試が控えていますが、後々にはアルバイトもできないくらい勉強が忙しくなるでしょうし、参考書などのためにかかる費用は増える一方です。今回いただいた奨学金は、それら私の将来のために少しずつ大切に使っていきたいと思っています。また、地方出身で一人暮らしをしており、さらには母がその全てを支ってくれているという状況なので、この奨学金によって、少しでも母を楽にさせてあげることができればと思っております。



●法学部1年（沖縄県）

本を読むこと、それはおそらく学生が最も時間やお金を費やすところなのだと思います。福澤先生が若かりし頃に、分野に縛られず多くの本を読んだように、私も学生時代に多くの本を読みました。またこれからも読み続けていきたいと思っています。授与していただける奨学金は、一層勉学に励むため、教科書や参考書を含めた書籍の購入資金に使わせていただこうと思っています。

●文学部3年（茨城県）

貴会奨学金の採用において「福澤諭吉の『ことば』から考えたこと」という課題作文を与えられたことで、「独立自尊」ということばについて改めて考えることができました。その結果、私はこのことばを「無闇に他人に頼ったり、周りに流されたりすることなく、自分自身で考え行動すること」と考えました。現代は世界経済危機をはじめとして、グローバルかつ複雑な問題が数多く存在し、その影響は私たちのごく身近なところにまで及んでいます。このような混沌した時代にこそ、かつて福澤先生が主張なさいた、独立自尊の精神が必要とされているのだと思います。この精神を持って生きていくことができれば、どんな状況をも乗り越えることができると思っております。

●経済学部3年（栃木県）

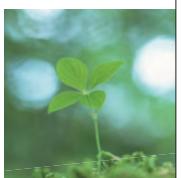
私が所属しております理工学部では、4年次から研究室配属となります。輪講での発表は自分が持っている知識をどのようにしてまとめるか、どのようにして相手にわかりやすく伝えるかを考えることが重要です。今まで苦手に感じていた、話をしながら自分の主張を考えられるようになる良い機会だと考えています。発表の際、厳しいコメントをいただいても、苦手なことに真っ向からぶつかることで、人は人間的に成長できると考えています。このような日々を送ることに充実を感じます。また、常に厳しい言葉をかけてくださる指導教員の先生方や、時には優しく、しかし厳しくする場面では本気で注意してくださる先輩方に囲まれて研究ができる私は、非常に恵まれていると思います。この恵まれた環境を活かして、研究をする者として必要な知識・技術を得ることはもちろん、人間的にも成長していきたいです。

●理工学部4年（大阪府）

150年余りの歴史と伝統を持つ慶應義塾に脈々と受け継がれる義塾発展を思う先輩方の支援を承ることは大変光榮であり、今後の勉学、学生生活にもますますの励みとなります。経済的に厳しい状況におかれました私は、このような先輩方の支援によって支えられている奨学金を給付してくださる諸制度により、今日も勉学に集中することができます。感謝の気持ちに絶えません。慶應義塾に宿る社中協力の精神に触れ、以前にも増して塾生であることに誇りを持つことができます。

●総合政策学部3年（山梨県）

心豊かな学生生活のために後輩へのご支援をお願いします



2008年度 慶應義塾維持会勘定収支決算

(単位:円)	
収入の部	
寄付金	194,992,700
維持会基金運用収入	73,844,153
(1) 収入の部合計	268,836,853
支出の部	
維持会事業費	
授業支援事業 ※「慶應義塾維持会奨学生」	23,700,000
その他の支援事業 ※創立150年記念講演会「学問のすゝめ21」	38,844,000
管理経費	
会員用三田評論経費	17,191,939
事務経費	10,626,167
(2) 支出の部合計	90,362,106
支出差額(1)-(2) ※全額を維持会基金に組み入れ	178,474,747
(3) 2008年度末維持会基金残高	2,639,946,519

1 収入の部

新規入会 525件、継続7,056件、計7,581件の寄付金（維持会員からの醵出金）と維持会基金運用収入により、268,836,853円となりました。

2 支出の部

1. 奨学支援事業 23,700,000円
「慶應義塾維持会奨学生」として充当。
2. その他の支援事業 38,844,000円
創立150年記念講演会「学問のすゝめ21」に充当。
3. 管理経費 27,818,106円

3 維持会基金残高

収支差額178,474,747円を維持会基金に組入れた結果、2,639,946,519円となりました。
昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会事業が遂行できるよう財務基盤を強化します。

[慶應義塾豆百科]福澤記念園

三田通りに面する東門（旧表門）を入って左へ坂をのぼりきったところに福澤記念園がある。現在の正門からは、いったん右へ突きあたって左折する坂道の東側一帯の地で、福澤先生の邸宅のあったあとである。福澤先生は明治3年、芝新銭座に住んでいたときに熱病にかかり、回復ののち、湿気の多い同地をきらって、翌4年の春、慶應義塾とともにこの三田の台地に移転してきたのであった。そして、同34年2月に死去するまでまる30年間、先生はこの地（いまの「福澤諭吉終焉芝地記念碑」）に住まって、三田の聖人、三田の大先生と仰がれたのである。もっとも、三田に移った当初の先生の住居は、いま図書館旧館が建っているあたりにあったということで、記念園になっている三田山上の東南隅に家を建てられたのは明治7、8年ごろのことと伝えられ、はじめは2階建ての洋館であったのを、同12年ごろ玄関わきの応接間および書生部屋以外はいっさい日本流の建物に改造し、さらに24年ごろ重ねて改築がほどこされて、建坪400坪（1300平方メートル）にある大きなものであったという。ところが、昭和12年4月になって、東京都市計画道路（市内線第13号）用地として敷地のうちの456坪余を削られ、庭園の大半を失ったため、福澤家は広尾の別邸に移転することとなり、同13年6月、先生の嫡男一太郎の一周年忌に際して、嫡孫八十吉から、この邸宅が仏間に除き慶應義塾へ寄付された。そこで、義塾では福澤先生の後半生をおくった由緒あるこの邸宅をながく保存し、塾生たちの訓育に資するはもとより、新時代の日本文化の偉大な指導者であった先生の終焉の地という歴史的遺跡としても、これをぜひ意義あらしめようとしたのであるが、時はすでに日華事変の最中であり、やがてはそれが太平洋戦争にまで拡大して、この邸宅もまた戦火の犠牲になってしまった。その後に昭和22年9月、こんにち見るような福澤記念園が大正10年理財科E組同窓「十E」会の厚意によって設けられたのである。ただ、その後、義塾創立100年記念行事の一つとして南校舎の建設と、それに伴う正門の南側への変更のため、車道用地として記念園の敷地のかなりの部分が切り取られ、いまではささやかな小庭園になっている。



●慶應義塾構内福澤先生居宅ノ遠景
(慶應義塾図書館所蔵)



●昭和22(1947)年9月に完成した福澤記念園
(慶應義塾図書館所蔵)

編集後記

秋学期が始まり塾生の笑顔がキャンパスに戻ってきました。維持会常任委員会懇話会にて夢と抱負を語ってくれた維持会奨学生の力強い眼差しはとても頼もしく、私自身、維持会員のひとりとして後輩の塾生を応援できることを嬉しく思っています。社中協力の礎である維持会の活動を推進するために、皆様方の一層のご支援をお願い申し上げます。またお知り合いの方にも維持会を紹介いただければ幸いに存じます。

慶應義塾基金室 課長 木村明子

慶應義塾維持会 News Letter No.2

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL:03-5427-1545 FAX:03-5427-1546

E-mail : kikin-box@adst.keio.ac.jp
<http://www.kikin.keio.ac.jp/>

発行日 2009年9月17日

発行 慶應義塾基金室 維持会担当
●ご意見・ご感想をお寄せください。